

時の楽しさ

河添 健

「12について書いてください」と依頼されたが、数学者であっても $12 = 2 \times 2 \times 3$ で、12の約数は1、2、3、4、6、12ぐらいしか答えようかない。 $12 \times 12 = 144$ 、 $21 \times 21 = 441$ なんて面白いこともあるが、それだけである。なぜ12が生活に密着しているかといえば、一年が12ヶ月だからである。バビロニア人が、12回月が満ち欠けすると太陽が約360回昇ることから、時や角度の記述に12進法を使ったのが始まりである。両手の指が10本なことから、10進法や60進法も割り込んでくる。この12、360、10が違うと、別の世の中になっていた。数学嫌いは算数から始まるが、時、分、秒の換算も貢献している。とても面倒である。時間もメートル同様、10進法にしてはとフランス革命暦(1日 = 10時間、1時間 = 100分、1分 = 100秒)を考えたが失敗。最近では1998年にスイスのSwatch社がインターネット・タイムとして、1日 = 1000beat(@1000)を提唱している。迷惑千万(10進法だ!)12、24、30、60などは生体の遺伝子のどこかに刻み込まれているはずであり、昼夜、時差、生活習慣こそ時の楽しさである。草木も眠る@750では情けない。